

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	重症児デイ ファミリー郡山		
○保護者評価実施期間	2026年1月15日		～ 2026年2月20日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	11名	(回答者数) 10名
○従業者評価実施期間	2026年1月15日		～ 2026年1月22日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	常勤4名 非常勤1名	(回答者数) 常勤4名 非常勤1名
○事業者向け自己評価表作成日	2026年3月2日		

○分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	医療的ケア児や重症児への手厚い支援体制で細やかな支援を実施	医療的ケア児が安心して安全に過ごせる環境づくりを第一に考え、日々の支援において様々な工夫と意識的な取り組みを行っています。特に、腸ろう(持続)や胃ろうによる経管栄養、てんかん発作への対応など、それぞれの医療的ケアの内容やリスクを職員間で十分に共有し、統一した手順で確実に実施できるよう体制を整えています。バイタル確認や体調変化の早期発見に努め、姿勢や誤嚥予防にも配慮しています。医療と療育の両立を意識しながら、一人ひとりに合わせた安心・安全な支援を行っています。	さらに充実を図るため、支援学校や相談支援専門員、医療機関、他事業所等と定期的に支援者会議を行い、情報共有と役割分担を明確にしながら連携を強化しています。学校での様子や課題を共有し、事業所での支援に反映させることで、一貫性のある支援体制を整えていきます。関係機関と継続的に協議しながら、より適切で質の高い支援につなげていきます。
2	日々の活動内容を充実させると共に、地域との関わりも大切にしながら、幅広い経験ができる支援実施	個々の発達段階や医療的ケアの状況に応じた合理的配慮を行いながら、健康・生活・運動・感覚・認知・行動・言語・コミュニケーション、人間関係・社会性の5領域を意識した支援を実施しています。一人ひとりが安心して活動に参加できるよう、日々工夫を重ねています。また、地域の方との交流を目的とした演奏会、買い物指導を取り入れ社会とのつながりを意識した支援を工夫しています。	さらなる支援の充実を図るため、職員研修や事例検討を定期的に行い、専門性の向上に努めています。又、学校や相談支援専門員、医療機関との連携を強化し、支援方針の統一を図っています。今後も関係機関と協働しながら、より質の高い支援体制の構築を目指していきます。長期休みなど地域のボランティアの方々と交流し、伝統文化に触れる機会を設け、学びと理解を深めていきます。
3	保護者との丁寧な連携を大切にすると共に、職員間でも密に情報共有を行い、一貫性のある安心できる支援体制を整えている	日々のコドモンによる連絡や送迎時の丁寧な対応を通して、小さな変化も共有できるよう心がけています。又、職員間で記録を細かく残し、情報の抜けや支援のばらつきが出ないように工夫しています。定期的なミーティングを実施し、お子様の様子や支援方法を確認・統一しています。保護者からのご意見やご相談は必ず職員間で共有し、支援に反映できる体制づくりを意識して行っています。	保護者との連携をより一層深めるために、定期的な個別面談の機会を計画的に設けると共に、日々の連絡帳や送迎時の対話だけでなく、必要に応じて電話や文章での丁寧な説明を行い、総合理解を深めていきます。保護者から頂いたご意見やご要望は職員間で必ず共有し、支援内容の見直しや改善につなげる仕組みを強化していきます。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	医療的ケア児や重症心身障がい児と、活動量の多い児童が同じ空間で過ごす時間帯があり、狭い環境の中で双方の安全面や安心感の確保に課題がある。動きのある活動と静的な支援が混在することで、刺激が強くなってしまいう場面が見られることが挙げられる。	当事業所では医療的ケア児および重症心身障がい児を受け入れています。施設スペースに限りがあるため、活動量の多い児童と静養や医療的配慮を必要とする児童が同一空間で過ごす時間帯が生じています。そのため、刺激の調整や安全確保により一層の配慮が必要となっている点が課題です。	限られた空間の中でも安全と安心を確保するため、活動内容や時間帯を調整し、動・静活動を可能な限り分けて実践する工夫が必要です。また、パーテーションの活用やレイアウトの見直しにより、刺激を軽減できる環境づくりを行っていきます。職員体制や見守り体制を強化し、お子様の体調変化に即時対応できる体制を整えることが重要です。定期的に会議を行い、環境面や安全面の課題を共有・検討しながら継続的に改善を図っていく取り組みが必要です。
2	保護者同士が交流する機会が十分に設けられておらず、保護者会も開催できていない状況です。そのため、保護者同士が情報交換や悩みを共有する場が少なく、つながりを築く機会が不足している。	保護者同士の交流機会や保護者会を開催できていない要因として、医療的ケア児や重症心身障がい児を養育されているご家庭が多く、日々の通院や体調管理に加え、保護者の就労状況により時間の確保が難しい状況です。そのため、日時を設定しても参加が困難な場合が想定され、開催方法の検討が必要です。	保護者の就労状況に配慮し、短時間・少人数での交流会での情報共有を検討します。また、アンケートを実施し、参加しやすい日時や形式を把握しながら、無理のない形で交流の機会を設けていきます。
3	防火管理者資格を有する職員を配置し、定期的に避難訓練を実施していますが、医療的ケア児や重症心身障がい児の避難については依然として課題が多い状況だ。特に、医療機器の取り扱いや移動に時間を要することから、一般的な避難訓練と同様の対応が難しいところがある。	お子様の特性を踏まえ、個別の避難方法を事前に検討し、移動手段や役割分担を明確にしています。持ち出し物品の確認を日頃から行い、緊急時に慌てないよう準備を整えています。また、避難訓練後には必ず振り返りを行い、課題を共有し改善につなげています。具体的なシミュレーションを取り入れ安全対策を強化しています。	避難体制を強化するため、計画の見直しを定期的に行い、児童の体調や成長に応じた内容へ更新してきます。また、医療機器、非常対応手順や持ち出し物品の再確認を行い、職員全員が共通理解を持てるようマニュアル整備を進めます。関係機関との連携確認や情報共有も継続し、緊急時に落ち着いて行動できる体制づくりを充実させていきます。

公表 事業所における自己評価結果

事業所名		重症児デイ ファミリー郡山		公表日		2026年 3月 2日	
		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点	
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。		○	静養室としてベッドを置いた独立した部屋や教室内に畳スペースを設け安心して休める工夫はしている。	重症児と歩ける医ケア児が混在するには狭い又、限られた場所で支援をしなくてはならない為、利用者数に対して狭く感じてしまうことがある。	
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	○		利用人数に対し、適切な利用人数を配置している。専門性を高めて行ける様に見学・研修会に積極的に参加している。	定員5名の施設になっている。児発管・指導員・常勤の看護師が2名とパート看護師が配置されている。	
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	○		送迎車はリフトカー3台使用。玄関にはスロープを配置している。安全面に気を付けながら、危ない所は即直すようにしている。	入口は、バギーが通るには狭く感じる。	
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	○		毎日の清掃や整理整頓を行い、子ども達の様子に合わせてながら、環境設定を整えている。定期的に設備等の点検を行ったり、快適に過ごせる様に心がけている。		
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	○		活動室とは別に、落ち着ける小スペースを用意している。個別スペースに移動しても必要に応じて職員が付き添い、安心して過ごせるようにしている。	スペースを確保しているが、空間が狭く十分な活動スペースとは難しい状況である。	
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	○		PDCAサイクルを心掛けミーティングや会議で職員で話し合う場を設け業務改善に繋げている。月1回振り返り、半年1回面談を行っている。		
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○		保護者向け評価表を年に複数回実施し、保護者等のご意向やご要望を把握する機会を設けています。会議等で具体的な改善策を検討している。	ホームページ掲載による情報周知を行っているが、一部の保護者に十分伝わっていない状況や書面配布を併用し、複数の方法で丁寧に周知を図っていく。	
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○		月1回の職員会議で、支援上の課題や改善案を出し合ったり、朝のミーティングで、小さな気付きも共有するようにしている。		
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	○		新規開設事業所の為、第三者による外部評価として、支援センター職員の方に視察を実施している。確認・助言を受け、内容を職員間で共有し業務改善と質の向上につなげている。	限られた空間の中で安全面に十分配慮しながら、活動内容や動線の工夫、少人数での活動分散など運営面での調整により、できる限り環境改善に努めていく必要がある。	
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内で研修を開催する機会が確保されているか。	○		他事業所に見学・研修会に参加し学んでいる。今後も該当する研修会に参加し情報共有していきたい。		
適	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	○		ホームページに公表している。	ホームページや配布物の周知方法を見直し、送迎時の口頭案内や定期的な再周知を行うなど、確実に情報が届くように改善していく。	
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	○		児発管を中心とした全職員でアセスメントを行ったり、保護者様と定期的に面談を実施し、ニーズ等の聞き取りやお子様やご家族に寄り添った支援計画を作成している。		
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	○		多職種の視点を活かし、指導員、看護師、送迎職員など、異なる立場の職員が意見を出し合える場を設けている。決定事項や方針は全職員に周知している。		
	14	放課後等デイサービス計画が職員間で共有され、計画に沿った支援が行われているか。	○		職員間で個別支援計画書の内容を把握・共有し支援を行い、話し合う場を設けている。見直していきながら適切な支援ができる様に努めている。		
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	○		職員ごとの視点が偏らないよう、観察記録を行っていききたい。		
	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	○		学校や関係機関と支援内容を共有し、統一した関わりがもてるようにしている。又地域ボランティアや伝統文化活動などを取り入れ、社会参加の機会を作っている。防災訓練や安全計画を定期的に見直し重症児や医療的ケア児でも安心して過ごせる体制を整えている。	今後は、職員研修や情報共有の充実を図り、より質の高い支援体制の構築に努めていく。	

切 な 支 援 の 提 供	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	<input type="radio"/>	立案は児発管が行い、その後職員同士で確認を行っている。	
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	<input type="radio"/>	お子様一人ひとりの体調面を見ながら、様々な活動を取り入れている。	
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	<input type="radio"/>	新規利用児は、慣れる事を優先に、状況に応じた計画書になっている。	
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	<input type="radio"/>	朝のミーティングや月1回の会議で共有している。	個別配慮を必要とする児童が多いため、支援内容の検討や情報共有に時間を要し、話し合いが長時間に及ぶことが課題である。
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	<input type="radio"/>	気が付いた時に、職員で共有する様にしている。今後も1ヶ月ごとの会議で振り返る必要があると感じる。	
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	<input type="radio"/>	支援記録があり、その都度記入している。記録を見ると子ども達の状況が見える様な書き方を心掛けている。	
	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	<input type="radio"/>	定期的にモニタリングを行っている。	
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせ支援を行っているか。	<input type="radio"/>	多様な活動をご利用児様の状況に応じて提供している。	
	25	こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	<input type="radio"/>	個別や仕切りのあるスペースを確保している。	個別の仕切りを設けているが、スペースが限られているため十分な広さが確保できず、音が伝わりやすい点が課題となっている。
関 係 機 関 や 保 護 者 と の 連 携	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	<input type="radio"/>	児発管が中心になり参加している。今後も積極的に参加していきたい。	
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	<input type="radio"/>	発作や緊急時の対応マニュアルを共有している。教育機関の専門教員から助言を受け支援を行っている。	
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	<input type="radio"/>	支援学校の送迎時に先生方と情報提供をし保護者と密に情報共有する様に努めている。	
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	<input type="radio"/>	今までは、該当しなかったが、今年度から情報共有を行っていきたい。	
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	<input type="radio"/>	今までは、該当しなかったが、今年度から情報共有を行っていきたい。	
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	<input type="radio"/>	職員が児童発達センターに見学研修に参加し、助言を受けている。今後も、積極的に参加し学んでいきたい。	
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。	<input type="radio"/>	その様な機会はまだないが、今後検討していきたい。	児童の特性や安全面への配慮から、児童クラブとの交流は実施が難しい状況である。
	33	（自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか。	<input type="radio"/>	多職種連携しながら、開催時は、参加している。	
	34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	<input type="radio"/>	毎回利用後にその日の様子や気づき、成長を保護者に伝え、共有している。	
	35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	<input type="radio"/>	ペアレントプログラムを受講した職員の研修資料を定期的周知している。機会があれば研修会に参加していきたい。	ペアレントプログラムは保護者支援には有効だが、医療的ケア児の育児負担や通院、就労等の事情により参加が難しい家庭もある。
	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	<input type="radio"/>	管理者が契約時に行い、重要事項説明書や料金等について丁寧に説明を行っている。	
	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の視点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	<input type="radio"/>	保護者様とは、定期的な面談を実施している。意思を伝えやすいツールを活用している。言葉で表現が難しいお子様には、表情や反応を丁寧に観察し、意思表示を汲み取りながら、支援している。	一部のご家庭での協力が難しい状況が見られたが面談では安心感を大切にしながら、お子様の成長を共有し、無理のない範囲で取り組める方法を提案していく。関係機関とも連携し支援体制を整えていく。

保護者への説明等	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	<input type="radio"/>	保護者に来所してもらい要望等も取り入れながら計画書の作成をし同意を得ている。	
	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	<input type="radio"/>	今後も、保護者様との関わりを増やし、悩みを打ち明けやすい関係を築き上げていきたい。	
	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	<input type="radio"/>	今後は保護者会等を通して親睦を深め家族と連携した支援を行って行きたい。	
	41	こどもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	<input type="radio"/>	苦情があった際は全職員で共有し、ミーティングやヒヤリハットを行い保護者に謝罪と改善点を説明している。	
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	<input type="radio"/>	活動の様子を写真と文章でHP掲載している。コドモンを活用し施設と保護者双方で情報を共有している。	
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	<input type="radio"/>	知りえた情報は、社内で完結するように心がけている。	
	44	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	<input type="radio"/>	子ども達一人ひとりの特性に応じた対応に心掛けている。	
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	<input type="radio"/>	長期休み時に、事業所合同活動を開催し、地域の方を招待し交流する機会を設けている。	
非常時等の対応	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	<input type="radio"/>	火事・地震・不審者などの定期的な避難訓練を実施し記録・周知を徹底している。	
	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	<input type="radio"/>	定期的に避難や救出等の訓練を行っている。	BCPを策定し定期的に避難・救出訓練を行っているが、重症児および医療的ケア児は自力避難が困難で医療機器の管理も必要な為、実践的な避難訓練の実践に課題がある。
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	<input type="radio"/>	利用開始前に服薬、予防接種、てんかん、癲癇等の体調面の確認をしている。又サポートブックをお預りし、詳しい内容を職員間で確認、共有している。万が一に備えお子様の健康管理に努めている。	
	49	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	<input type="radio"/>	保護者様に見学時や面談時に、有無を確認している。アレルギーに関しては細心の注意をしている。	
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	<input type="radio"/>	安全計画を作成し、定期的に研修や訓練を行っている。	
	51	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	<input type="radio"/>	避難訓練の様子等行った時は、保護者様にその都度報告している。又ホームページでお知らせしている。	
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	<input type="radio"/>	ヒヤリハットの記録をし、ミーティングや会議等で話し合い予防に努めていきたい。	
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	<input type="radio"/>	研修会に積極的に参加し、職員間で共有し、虐待防止について意識しながら支援していきたい。又事業所内部でも委員会を設けている。	
54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	<input type="radio"/>	身体拘束を行うご利用児様がない。いた場合は、十分な説明と了解が必要であると理解している。		

公表

保護者等からの事業所評価の集計結果

事業所名		公表日				回収数		
重症児デイ ファミリー郡山		年月日 2026年3月2日				11名	10名	
		利用児童数				11名		
環境・体制整備	チェック項目	はい	どちらともいえない	いいえ	わからない	ご意見	ご意見を踏まえた対応	
	1	子どもの活動等のスペースが十分に確保されていると思いますか。	6	2	1	1	・うちの子には少し狭い気がするが、本人が満足しているようで十分であると思う。 ・バギーなどあると少し狭いと思います。	建物の構造上、広さを変えることは難しいのですが、その分、安全面や安心できる環境づくりに力を入れております。
2	職員の配置数は適切であると思いますか。	7	2		1	・看護師さんの人数も多く安心して預けられます。又看護師さんの支援が手厚く助かっています。 ・利用児も増えて少しバタバタしている様子が見られました。	利用児童が増えた事により、時間帯によっては、慌ただしく感じられる場面があったかもしれませんが、活動内容や職員配置の見直しを行います。落ち着いて過ごせる環境づくりを進めていきます。	
3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっていると思いますか。また、事業所の設備等は、障害特性に応じて、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされていると思いますか。	9	1			・バーテーションで分けられていたり子どもにも理解しやすい構造化されていると思う。 ・模様替えをしたようですが子どもが理解していたか心配です。安心できていたのでしょうか？	今後も安全を第一に考えながら、落ち着いて活動できる環境づくりに努めてまいります。又、環境の変化が負担にならない様十分配慮しながら見直しを行ってまいります。	
4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっていると思いますか。また、こども達の活動に合わせた空間となっていると思いますか。	9	1			・いつも清潔で安心して預けられます。 ・入口の階段が車椅子を出す時少し不便利です。	バギーの出入り口では、複数職員で安全確認を徹底しております。今後も安全面を最優先に改善を検討してまいります。	
適切な支援の提供	5	こどものことを十分に理解し、こどもの特性等に応じた専門性のある支援が受けられていると思いますか。	8	1		1	・絵カードを使用したり、工夫をこらした支援をしてもらっています。	
	6	事業所が公表している支援プログラムは、事業所の提供する支援内容と合っていると思いますか。	9			1	・合っていると思います。	
	7	こどものことを十分理解し、こどもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、放課後等デイサービス計画（個別支援計画）が作成されていると思いますか。	9	1			・母より十分理解し、計画書作成がされています。 ・支援者の不安が伝わってきて少し不安になっています。	支援者の不安については早めに話し合い思いを聞き取り、その上で情報共有と役割確認を行い、不安の軽減につなげていきます。
	8	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」で示す支援内容からこどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されていると思いますか。	9			1	・適切に設置されている。母より十分に理解して計画書作成や支援がされている。	
	9	放課後等デイサービス計画に沿った支援が行われていると思いますか。	9			1	・行われていると思う。	
	10	事業所の活動プログラムが固定化されないよう工夫されていると思いますか。	9			1	・様々な活動が行われていると思います。 ・毎月のホームページを楽しみにしています。	
保護者への説明等	11	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会がありますか。	7			3	・参加したことはまだない。 ・存在を知りませんでした。	
	12	事業所を利用する際に、運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明がありましたか。	9			1	・しっかり説明されました。	
	13	「放課後等デイサービス計画」を示しながら、支援内容の説明がなされましたか。	9			1	・しっかり説明されました。	
	14	事業所では、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等も参加できる研修会や情報提供の機会等が行われていますか。	6	1	2	1	・行われている。	職員の研修参加状況や学んだ内容について会議やお便り等を通して共有し、保護者にもわかりやすくお伝えしていきます。
	15	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの健康や発達状況について共通理解ができていると思いますか。	9			1	・出来ている。	
	16	定期的に、面談や子育てに関する助言等の支援が行われていますか。	8			2	・行われている。助言を頂けるのでありがたいです。	
	17	事業所の職員から共感的に支援をされていると思いますか。	9			1	・とても良く支援してくれるので、助かっています。 ・様子が分からないです。	活動内容など関わりの様子など、より丁寧にお伝えし安心して頂ける様努めてまいります。
	18	父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により、保護者同士の交流の機会が設けられるなど、家族への支援がされているか。また、きょうだい向けのイベントの開催等により、きょうだい同士の交流の機会が設けられるなど、きょうだいへの支援がされていますか。			3	7	・分からない。 ・受けたことがありませんでした。	現在、保護者会を開催出来ておりませんが、今後は保護者同士が交流できる機会を短時間で設けられるよう検討してまいります。

	19	子どもや家族からの相談や申入れについて、対応の体制が整備されているとともに、子どもや保護者に対してそのような場があることについて周知・説明され、相談や申入れをした際に迅速かつ適切に対応されていますか。	9			1	・十分にされている。	
	20	子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされていると思いますか。	9			1	・十分にされている。	
	21	定期的に通信やホームページ・SNS等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果を子どもや保護者に対して発信されていますか。	9			1	・十分にされている。	
	22	個人情報の取扱いに十分に留意されていると思いますか。	9			1	・されている。	
非常時等の対応	23	事業所では、事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等が策定され、保護者に周知・説明されていますか。また、発生を想定した訓練が実施されていますか。	9			1	・されていると思う。	
	24	事業所では、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練が行われていますか。	9			1	・されていると思う。	
	25	事業所より、子どもの安全を確保するための計画について周知される等、安全の確保が十分に行われた上で支援が行われていると思いますか。	9			1	・されていると思う。	
	26	事故等（怪我等を含む。）が発生した際に、事業所から速やかな連絡や事故が発生した際の状況等について説明がされていると思いますか。	9			1	・十分に説明されている。	
満足度	27	子どもは安心感をもって通所していますか。	9			1	・とても安心して通っている。 ・自傷が少し多くなった気がします。	自傷の原因やきっかけを記録しながら支援方法の見直しを行っております。安心して過ごせる環境づくりと、気持ちを表現できる関わりを強化してまいります。
	28	子どもは通所を楽しみにしていますか。	9			1	・とても楽しみに通っている。	
	29	事業所の支援に満足していますか。	8	1		1	・とても満足し、助かっている。	